

C

☆教科等の指導における配慮を記載する個別の指導計画（例）

氏名		学年	
----	--	----	--

●本人が教科学習で抱えている制約や困難さ

- ①見えにくさ ②聞こえにくさ ③道具の操作の困難さ ④移動上の制約
⑤健康面や安全面での制約 ⑥発音のしにくさ ⑦心理的な不安定
⑧人間関係形成の困難さ ⑨読み書きや計算等の困難さ ⑩注意の集中を持続することの困難さ
 (他) 記憶することの苦手さ 自由に表現していく困難さ
 その他（気づいたこと）

小・中学校学習指導要領解説（各教科等）上に記載^{*1}している障がい等による学習上の困難さを基にしており、本人が抱えている困難さの状態を考える視点として活用します。チェック式なので、見やすく、文章よりも本人が抱えている困難さを素早く情報共有できます。

障がい名等

*その他 必要な情報は、個別の教育支援計画に明記している。

●「きめ細やかに指導するために」各教科の困難さにおける指導内容や指導方法の工夫

実施期間 年 月 日 ~ 評価 年 月 日 *配慮番号は上記の10の視点に対応

教科	配慮番号	●困難さ○指導の工夫の意図、手立て	評価
		<p>困難さの状態を考えます。</p> <p>全ての教科を書くのではなく、指導内容や指導方法に配慮が必要な教科を「きめ細やかに学習」するために活用する個別の指導計画です。中学校等の教科担任制では、回覧して記入し、活用している例もあります。</p>	<p>各教科の配慮が、子どもにとってどうだったかを検討します。さらに、今後も個別の指導として必要なことかどうかも書くと、引き継ぎの時にはっきりとします。</p>

全体的に共通する配慮事項

全教科に共通する事項を記載します。

* 1：小学校学習指導要領解説及び中学校学習指導要領解説の各教科等の内容に示されている学習活動を行う場合に生じる困難さを基にしています。